

9月13日(水)17:30-開催

第4回CTLT×DCC産学交流フォーラム

大学における教育データの利活用

～実務と研究の観点から教育データを考える～

日時 2017年9月13日(水) 17:30-19:20(17:00開場)

会場 早稲田大学早稲田キャンパス 27号館 地下2F 小野記念講堂

お申込み 以下の申請フォームよりお申込み下さい。

<https://my.waseda.jp/application/noauth/application-detail-noauth?param=OiHxoQIZmrUXzaOWVXVEHQ>

教育改善や意思決定にデータを活用することの重要性が高まりつつある。

主に、教育工学、Learning Analyticsなどの様々な分野で教育データは扱われ、各分野においてデータの利活用に関する研究が蓄積されてきた。

しかしながら、大学における教学データという側面においては、各分野の重複部分も多く、IRの観点から見ると総合的にこれらの知見を生かし、教育改善に役立てることが期待される。

本シンポジウムでは、三つの講演をもとに、実務と研究の観点から教育データを利活用し、これらをIRを通していかに繋いでいくかを検討していく。

教育データの実務と研究に関わる多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【当日プログラム】

17:30 開会

17:40-18:05 講演 「教育データのマイクロレベルとマクロレベルを統合する可能性について」
■福井県立大学 山川 修 教授

18:05-18:30 講演 「帝京大学におけるエビデンスベースの教育改善の取り組み」
■帝京大学 中鉢 直宏 助教

18:30-18:55 講演 「大学IR活動のベースとなる指標:何を『見える化』するか」
■首都大学東京 松田 岳士 教授

18:55-19:20 質疑応答等

19:20 閉会

(コーディネーター 早稲田大学 大学総合研究センター 姉川 恭子 助教)

主催: 早稲田大学 大学総合研究センター(担当・中山)

E-mail: ches-staff@list.waseda.jp

共催: 早稲田大学 デジタルキャンパスコンソーシアム(DCC)



早稲田大学 大学総合研究センター
Center for Higher Education Studies, Waseda University

講演「教育データのマイクロレベルとマクロレベルを統合する可能性について」

福井県立大学 山川 修 教授



現在、教育データの利用といった場合、授業改善を目的とするLearning Analyticsと教育システムの改善を目的とする教学IRの2つの視点がある。

この2つの視点は目的は違うが使っている方法論やデータには重なりがあり、本来、教育を改善するという共通の視点から議論できると考えている。

本講演では、この2つの特徴を説明したうえで、どう橋渡しできるかの検討を行う。

講演「帝京大学におけるエビデンススペースの教育改善の取り組み」

帝京大学 中鉢 直宏 助教



IR (Institutional Research) において、教育機関の量的データ、質的データ等の様々なエビデンス(証拠)を揃えることは重要な役割となっている。

2016年に帝京大学IR推進室が高等教育開発センターの中に設置された。特徴は、高等教育開発センターと連携して教育改善や学修環境改善のためにIRデータを活用したエビデンスが伴うFDやSDの実現を目指すことにある。

ここでは、本学の大学改善に向けて、ALCS学修行動調査をはじめとするIRデータ収集やエビデンスとしてのIRデータへの取り組みについて紹介する。

講演「大学IR活動のベースとなる指標:何を『見える化』するか」

首都大学東京 松田 岳士 教授



大学でIRに携わるものであれば、データをどのような形で取りまとめ、報告するかという課題に日々直面しているはずである。そのような課題解決の道しるべとなる方法の一つが、IRで用いられる指標に関する幅広いノウハウの蓄積と学内関係部署との共有である。

本講演は、可視化と操作性の観点から指標の扱いを再考する。

アクセスマップ>>> 会場:早稲田大学早稲田キャンパス 27号館 地下2F 小野記念講堂

